



「眠りの街」
(100D×100W×120H) テラコッタ・木
「東日本の現代作家彫刻展」優秀賞入選(2002年)
「コンスタンチン・ブランクーシ賞」奨励賞受賞(2003年)

北郷 悟 (きたごう・さとる)

1953年福島県いわき市生まれ。
77年 東京造形大学彫刻科卒業。1979年東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。
87年東京芸術大学非常勤講師(～91年) 97年東京芸術大学美術学部助教授(～現在)
「眠りの街」は、都市に存在する過去から現在の積層された時間について表現した。現代の風のように流れる時間、過去からにじみ出るように佇む時間、二つの時間の狭間で行き交った人の意識とその空間性に「人々の存在」を感じることができる。「土」の持つ特質はその時間性を持った素材として、焼成することでテラコッタの作品とした。(作者の言葉)

東京芸術大学広報誌 藝大通信第6号

編集発行 東京芸術大学広報委員会

編集委員 野田暉行(副学長・音楽学部作曲科教授)

長谷部浩(美術学部先端芸術表現科助教授)

渡邊健二(音楽学部器楽科助教授)

太田和良幸(事務局長)

アートディレクター 蓮見智幸(美術学部デザイン科助教授)

制作 株式会社 平凡社

発行日 平成15年9月1日

お問い合わせ先

東京芸術大学総務課

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

電話 03-5685-7509 FAX03-5685-7760

e-mail jkikaku@off.geidai.ac.jp URL <http://www.geidai.ac.jp>

第6号目次

- 3 11 **特集 継承と発展**
日本の伝統をどのように生かすか
- 4 7 **【座談会】「工芸」と「邦楽」の未来形**
堀口光彦 / 増村紀一郎 / 野村四郎 / 山本泰正(邦山)
- 8 9 **工芸の世紀を俯瞰する**
「名作200余点でたどる『工芸の世紀』明治の置物から現代のアートまで」展の意義 戸津圭之介
- 10 11 **「熊野」から「竹取」へ**
邦楽総合アンサンブル研究の試み 三浦正毅(望月太喜雄)
- 12 13 **NEWS 2003.4～2003.7**
美術研究科先端芸術専攻修士課程設置 桂英史
- 14 15 **タイムカプセルに乗った芸大**
【第6回】1951～1960年
佐藤道信 東京芸術大学美術学部1951年
瀧井敬子 東京芸術大学音楽学部1956年
- 16 17 **開かれた大学**
ワイマール・パウハウス大学との交流展
「グリーンスペース」を移植する 井村彰
- 18 19 **学生のいる風景**
東京芸大シンフォニア英国公演
芸大の素晴らしさを再認識した旅 佐藤卓史
- 20 23 **芸大短信2003.9～2004.3**
- 20 21 **秋の大学美術館**
"仏を観る 展 / 世界の陶芸 交流授業 /
"しあわせのデザイン 展
- 22 23 **秋の奏楽堂**
ピアノシリーズ2003 プロコフィエフ没後50年

藝大通信

No.06

TOKYO GEIDAI
東京芸術大学広報誌

第6号刊行にあたって

芸大は規模そのものは決して大きな大学ではありません。しかし切り口によって実に多様な局面を見せる多重性を持った大学であり、ある意味で大学という既成概念を超えた、計測不可能な奥行きを持つ大学と言えるかもしれません。

この芸大通信では、それをできる限りわかりやすい形でお伝えしようと努力しております。しかし、言葉と写真等ではなかなか表現できないものがあるのも事実です。

これまでの特集では、主として芸大を縦軸の方向に切る形で組んでまいりました。今回は少し趣を変え、横軸の方向と言えばよいでしょうか、芸大の持つ内面的な宿命ともいべき「伝統」と「現代」に焦点を当て、その相克、その可能性について、学内のスタッフが語ります。もとよりこの小冊子ですべてを語るわけにはまいりませんが、常にその問題に直面している達人たちの問題提起は、一つの象徴として大きな意味を持つものと思います。

伝統の継承と、時代の欲求。その縦断的の出会いがもたらす新しい世界。芸大でならではその追求は永遠に止むことはありません。

藝大通信編集委員長
副学長(企画担当)
野田暉行